

問一

- a 清涼剤
- b あふ(れて)
- c 椅子
- d 悪臭
- e けん
- f 癖

問二

- 作品 オ
- 作家 ク

問三 イ

問四 倒れた人

問五 (例) あっけなく

問六 口

問七 (採点の方針) 正答の要点は個人の身体や生命を度外視する軍隊や上官の非情・不合理さについてふれていること。その上で自身の考えが展開されていれば加点对象。

問八 (例) 本文Aの段階ではほとんどそれを意識しておらず、平気で蜂のことを殺している(それを何とも思っていない)。Bの段階では入手した鴨が殺されることにやや違和・嫌悪感を覚えているが、それは概ね生理的な不快感に近いものであり、また強度においてもそこまで強いものではない。Cの段階では生物の命を奪うことを強く忌避しており、未だ生理的なものではあるものの、同じ対象であっても、Bの時よりは強度を増し、また「自分」にとってもそれがはっきりと自覚されている。

問一 三

- a (活用の種類) ダ行下二段活用
(活用形) 終止形
- b (活用の種類) マ行上一段活用
(活用形) 已然形
- c (活用の種類) カ行変格活用
(活用形) 連体形
- d (活用の種類) ク活用
(活用形) 連用形
- e (活用の種類) ハ行四段活用
(活用形) 命令形

問二

- X ける
- Y るれ

問三

居り

問四

A 使われよう(たい)ということ、ついてくる子どもがいる。

E どちらが優っているか

問五

エ

問六 海賊が報復に来ることが気にかかる上に、海自体も恐ろしいから。

問七 海に立つ白波を白髪に見立て、白髪が多くなる高齢者は海にいるのだなど、
諧謔的な気づきを述べている。

問八

作者 紀貫之

同時代の作品 イ

問一 三

- ① その
- ② はかり(る)
- ③ したがい/よりて
- ④ しむ

問二

(4)

問三

(3)

問四 猿は手足を動かして、奸夫と淫婦が夫を殺し、死体を埋める様を真似て、役人に見せた。